

令和 7 年度 自己評価結果公表シート

学校法人 大宮学園 大宮幼稚園

1、園の教育目標

「強く」「正しく」「朗らかに」を園訓とし、心技体の調和の取れた豊かな人間性を育成する。

本園の教育目標として

- 1、健康、安全で幸福な生活のための基本的な生活習慣・態度を育て、健全な心身の基礎を培う。
- 2、人への愛情や信頼感を育て、自立と共同の態度及び道徳性の芽生えを培う。
- 3、自然などの身近な事象への興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培う。
- 4、日常生活の中で言葉への興味や関心を育て、喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養う。
- 5、多様な体験を通じて豊かな感性を育て、創造性を豊かにする。

2、本年度の学校評価の具体的な目標や計画

本年度は、園の目標達成に向け、従来の活動に加え、知育活動に本格的に取り組んでいる。園独自のテキストを使い、受け身的な子どもや主体的に取り組めない子ども達へ支援を強化していき、子どもの認知感覚を育む観点から、積極的に導入していく。特に、指導者主導を見直し、子どもの関心・意欲に基づく教材を工夫し進んでいくようにして、子ども達のよりよい成長を支援する。

そのために園内教職員研修や、園外研修にも参加し、個人やチームとしての指導力向上を図っていく。学期末には、自己点検、自己評価を通して、取り組み状況や進捗状況を把握し、全職員で目的を再確認し共通理解を図りながら進めていく。地域、保護者からの外部評価から、その効果について検証し、保護者のニーズに合った教育活動を目指していく。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
研修会や研究会に積極的に参加し 教員の資質向上を図る。	教職員の指導力の向上を図るため、大阪市私立連合会主催の各種研修会や、講師招聘による園内研修会、地域研修会などの学習会に参加した。幼小連携も進め、小学生との交流や情報交換などを行い、幼少の段差解消に向け取り組んだ。
全教職員による観察・指導	宿泊行事や各種発表会などの行事では、全教職員で全園児に関わる機会として取り組み、多くの視点で子どもを観察するようにした。特に、配慮を要する子どもへの指導は、保護者や教職員、加配教員の力だけでなく、他療育機関からの助言も取り入れ取り組むようにした。
学年会の充実	問題対応を保育者が一人で抱えることなく、学年内でよく話し合い、適切な対応ができるように、どんな問題が起きても教職員間の情報交換を怠らず、お互い支えながら適切な対応ができるようにした。定期的に学年会を持ち、配慮を要する子どもたちへの指導についても事前に打ち合わせをした。

効果的な指導方法	指導者が教えることより子どもたちが自分たちで考え行動できる機会を多く持った。子ども達の主体性を育てるためには、自分たちで考え判断できる環境を整える事が大切である。話し合いの場を多く設定し観察を通して幼児期に相応しい育ちを工夫した。
安心感ある保育活動	子どもが不安に感じる原因を明らかにすることを心掛け、活動の事前に子ども達と話し合う場を多く設定し、自分たちで考え行動できる機会を多くした。活動が楽しく終われるように見通しを明確化し、活動後には、一連の流れを振り返り、子ども達が達成感を多く感じられるように工夫した。
よりよい友だち関係をつくる。	子ども一人一人の内面的欲求を充足するように、まず、指導者がしっかり子どもの話に耳を傾けるようにした。少しずつ自分以外の友だちの気持ちや考えに気付くようにして、友だちの楽しさに触れさせていくようにした。
基本的な生活習慣の指導	今年度も基本的な生活習慣である「手洗い・うがい」を重点的に指導した。園だより等を通して啓発を行い、保護者と連携し、習慣を身に付けていくようにした。又、大きな声で挨拶ができるように指導を継続した。
自立支援	支援の必要な変化を不安に感じる子どもが多い。自立には安心した環境が不可欠と考え、園生活をできるだけパターン化したり、予告支援をしたりして、不安のない環境を工夫した。。他者との比較する活動を少なくし、自分自身の頑張りの良さを多く伝える指導に心掛けた。
情報の発信	毎月の園だよりやブログで、行事予定や案内だけでなく、子ども達の日々の様子を保護者へ伝えた。さらに、緊急情報には各家庭へメール配信も行い、園児の安全管理にも役立てた。

4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
A	職員会議で教職員間の内部評価を行った。全体的には、行事や活動が計画的に実施され、保護者からも協力的な様子も多く見られ、本年度重点的に行った知育の活動が展開された故こともあり、園児の成長が認められたことなどが報告された。保護者からも、教職員が互いに補完し合い動いている姿や、知育活動を取り入れ楽しく学んでいる子どもの姿に、安心されている話を聞くことができた。 その結果、概ね目標を達成していると判断した。今後も、地域との連携を深め、地域・保護者・園で子どもたちを見守り育てる環境を整えていく。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
園内研修会の充実	自園内で、お互いの保育指導の様子を見合ったり、討議したりする中で、教職員一人ひとりの持ち味を生かした指導方法を見つけたり改善点を話し合ったりして、相互の指導技術の向上を図っていく。また、他園保育参観の報告会や、情報を共有する研修会も行っていきたい。

指導方法の向上	子ども達が、「できた」「もっとしてみたい」と、意欲的に・主体的にチャレンジする気持ちを育て、子ども１人１人の内面的な欲求が充足できる保育を工夫する。 その上に立って、本来備わっている力を引き出すために、どの子にまた、障がいの傾向を有する子どもに対しても、適切な対応ができるように、環境調整と適切な指導の充実に取り組む。幼児期は、「教える」ことより、「育てる」ことの意識をもち、子どものペースを大切にしながら指導にあたっていきたい。
小学校との連携	集団生活に不適應をおこす子ども達が多くなっている。そのために小学校に就学する以前に、育てておくべきものを充足しておくことが、連携の基本的なことである。家庭と連携し安心した環境を作り、子ども１人１人の内面的な欲求を充足しておくことが重要で、自分が充足されていなければ、他者を充足することはあり得ない考えに基づくものである。他者との関りが始まる就学後の生活に、不可欠な育ちである。そうした子どもの発達段階を理解する連携に取り組みたい。 物理的には、普段の学校行事にも子ども達が参加し、段差のない移行ができるようにしたい。現在、小学校区の評議委員を担当していることもあり、さらに、幼小の連携を深めていく。

6、学校関係者評価委員会の意見

・ 地域からは、地域行事に幼稚園が積極的に関わっていることや、いろいろな子育てに関する相談に対しても、適切に対応されているとの報告があり、概ね高い評価をいただいた。 引き続き、地域の子どもの健全育成や、保護者の子育て相談できる場としての役割を果たしてほしい旨の要望が出された。 ・ 保護者からは、ウイルス感染に対する対応や、子ども達への指導も適切に行われているとの報告がある。また、教職員の団結力も良く、連携して子どもたちの環境が良く維持されているとの意見が聞かれたことから、概ね「目標は達成されていた」と判断するに至った。 しかし、最近の過度な情報の中で、子育てに関する悩みだけでなく、いろいろな情報に振り回されている保護者が多く見られ、人間関係を煩わしく感じ避ける保護者や、過度な心配から神経質になっている。子どもの良い環境作りには、大人の関係作りが大切であることから、子どもだけでなく保護者同志、お互いよく知ることができる場づくりも、幼稚園の役割となりつつある。
--